

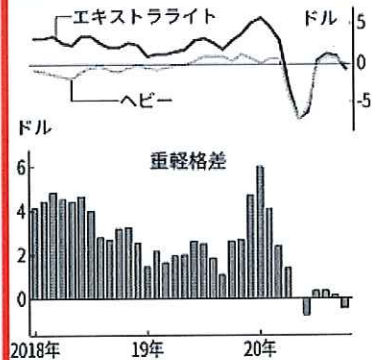
転変 石油市場

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、世界の石油需要が長期低迷の様相を見せ始めた。輸送用を中心としたエネルギー需要の蒸発は石油の価値の常識を覆し、国内の供給構造も変えつつある。姿を現した石油市場の「新常态」に迫る。

ニューヨーク原油先物が1.40ドル弱から36ドル台に急落した8日。市場の視線は世界最大の石油輸出国サウジアラビアに集まった。国営石油会社サウジアラムコが原油の公

軽質油余り 消える価格差

重質油と軽質油の価値の差が消える



(注) サウジ産の調整金、1バレルあたり

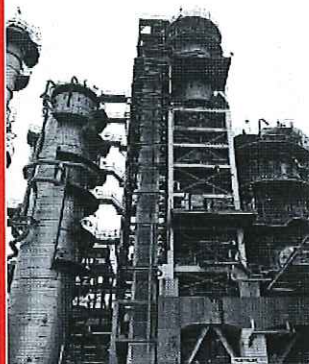
式価格を市場の予想以上に平均を指標に、調整金を引き下げ、需要回復の遅さを強く印象付けた。アラムコ関係者は「製油所の稼働を落とす動きがある」と説明した。

公式価格とは「アラビアンライト」など5油種（EXL）の調整金は前月から1.5ドルと大きく下がった一方、重質油への調整金は0.9ドルにとどまった。

現物供給やサウジの価格戦略を映し、注目度が高い。アジアではドバイ原油とオマーン原油の月間

平均を指標に、調整金を加えたり引いたりして輸出価格を決めている。10月積みのアジア向け公式価格は油種間で下げ幅の差が目立った。軽質油「エクストラライト」の調整金は前月から1.5ドルと大きく下がった一方、重質油への調整金は0.9ドルにとどまった。

重質向きの国内精製 逆風



日本の製油所は重質油の精製に向く（千葉県製の油所）

ヘビーより高く取引される油の生産国が米国の制裁の普通だ。調整金も輸出しにくくなった。通常は軽質ほど高く、1月には約5ドル開いていた。この「重軽格差」が5月以降はほぼ解消した。

足元では軽質の方が重質より安い「逆転」も起きている。コロナ禍でガソリン需要が停滞。国をまたぐ移動の制限も続き「航空機燃料の落ち込みが強く影響した」（出光興産）という。

重質油の価値は下がりつつある。原油の価値の「フラット化」は日本の石油会社にとって逆風だ。国内の製油所は中東産に多い重質・中質油の精製に向く。専用の分解装置で割安な重質油を精製し、ガソリンなどを生産し収益を上げてきた。この前提が揺らげば製油所の全体の競争力に響く。

製油能力の増強が進んだ中国はガソリンなどの輸出を伸ばしている。石油産業に詳しい和光大学の若岡剛一教授は「設備が新しい中国は幅広い油種を日本より比較的柔軟に使いこなせる。内需縮小で設備投資が難しい日本の製油所には逆風だ」と指摘する。



ウメモト インフォメーション



9/23 小坂

元売 異例の製油所運用

コロナ対応ガソリン輸入増

暖房油シフトで改善へ

ガソリン需要最盛期の8月が過ぎて、9月の4連休も終わり、元売の供給体制は暖房用燃料油主体にシフトする。今年には新型コロナウイルス感染拡大の影響で、石油製品の総需要が減少。さらに緊急事態宣言解除後の需要回復局面では、油種によって温度差が生じる異例の事態に陥り、安定供給と収益上のダメージシフトコントロールを両立する、極めて難しい製油所運用が続いている。

新型コロナ下の対応 入で補う措置を取ってとして多くの製油所は、ジェット燃料油需要の消失でもっとも低調な灯油留分に合わせ稼働を抑制し、不足するガソリンは製品輸

石油連盟の杉森務会長（ENEOSホールディングス会長・クループレCEO）は9月の定例会見で「灯油やシ

ェット燃料の得率は通常なら2割。これを10%程度に絞り、さらに灯油留分の需要に合わせた全体の稼働を調整している」と、製油所が不足する。資源・エネルギー統

を説明した。灯油留分の生産を絞れば、軽油の生産量は増える。ただ製油所自体の稼働を抑制すると、ガソリンが不足する。

計によると、7月のガソリン輸入量は44万6206吨で前年同月を18万8850吨（73・4%）も上回った。ガソリン輸入が40万吨を超えたのは、東日本大

震災に見舞われた2011年の需要期8月（47万9970吨）以来。内外価格差を背景に商社の輸入も活発だが、7月の増加分の多くは元売だったと推測される。

国難とされる新型コロナ下で、石油製品の安定供給に苦心する元売にとって冬場は、灯油留分の需要を押し上げる待望の季節といえる。夏場の国内製油所稼働率は、ジェット燃料油の不振を補う術がなく、7月最終週に57・7%と異例の低水準に落ち込んだ（石連週報）。9月第2週には要の本格回復はまだ見えて来ない。

ただ今冬の灯油は、流通在庫の積み増しが早期に進んでおり「需要を先食いしている状態」（杉森会長）という。何より冬場に一時的に製油所の稼働率が改善しても、灯油需要期が終わればジェット燃料油見合いの厳しい運用に戻らざるを得ない。

外務省によると、日本からの渡航者や日本人に対して入国制限措置をとっているのは、15日時点で116カ国・地域。18日にはシンガポールとの間で、出張など短期滞在者の往來再開に踏み切ったが、ジェット燃料油需要の本格回復はまだ見えて来ない。



ウメモト インフオメーション



2020年9月18日

担当者：榎野

原油、40ドルにらんだ展開

石油連盟
杉森会長

燃料油需要7〜8%減



石油連盟の杉森務会長
(Eneosホールディングス会長)は17日に定

例会見を実施し、新型コロナウイルスの影響下の需
要動向や原油価格の展望
について語った。原油価
格(ドバイ)は今後1カ
月ほど40ドル台をにらみ推
移するとの見通しを示し
た。また、8〜9月の燃

社のシナリオに対して
「私個人としては考えつ
らい」との見解を示した。
直近2カ月間の原油価
格は「ドバイ原油が40
台前半の狭いレンジで推
移したが、足元ではやや
弱含みしている」と語っ
た。9月にサウジアラム
コ社が提出した10月公式
販売価格が市場予想を越
える引き下げとなった「
ことなどから、原油需給
改善への期待感が後退し

たことを要因に挙げた。
今後は40ドル台を見据えた
市況の展開が続くと予想
するが、「油価が低迷した
場合、主要産油国で構成
される石油輸出国機構
(OPEC)プラスが協
調減産に踏み切るか注視
する」と述べた。
8〜9月はコロナ禍に
加え、台風の影響や行楽
需要の停滞の影響を受
け、ガソリンや軽油など
主要石油製品4品は前年

比7〜8%減となるとの
予想を示した。また、シ
ェット燃料が前年の3
割となった影響から、
シェット燃料の原料であ
る灯油留分は「例年より
も早期に貯蔵タンクに入
っており、ある意味では
冬期需要の先食いが生じ
ている」と述べた。シ
ェット燃料の需要に合わせ
製油所の稼働も調整し、
ガソリンの輸入も発生し
たという。

BPによる石油需要の
長期予測では、石油需要
がすでにピークに達した
というシナリオも一部提
示された。こうしたシナ
リオを「かなりショッキ
ングな内容ではないか」
と形容したうえで、「新型
コロナの影響はまだ見極
めがつかないが、アジア
地域の新興国では燃料油
需要は伸びていかないと
いけない」との見解を示
した。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報

道路橋修繕6割未着手 自治体の財源・人手不足

2020/9/17 12:27 | 549文字

保存 共有 印刷 共有 ツイート その他

国土交通省は17日までに、2014～18年度の5年間に老朽化などで修繕が必要と判定された道路橋約6万9千カ所のうち、64%が19年度末時点で未着手だったと発表した。

都道府県や市町村が管理する道路が、国などの管理道路に比べて遅れが目立つ。財源や人手が不足している自治体も多く、国は財政支援を行うなどして対応を促す。

中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故を受け、国や自治体は14年度から全国の道路を順次点検し、18年度に1巡目を終了。落橋や壁の崩落などが起きる恐れがある「緊急措置段階」や「早期措置段階」と判定されれば、5年以内の修繕が必要とされている。

19年度末時点で橋6万8838カ所のうち、修繕を始めているのは4万3901カ所。トンネルは4417カ所のうち1936カ所（44%）、歩道橋など道路付属物は6084カ所のうち3744カ所（62%）が未着手だった。

14年度に点検し、危険と判定された橋は18年度までに修繕に着手するよう求められていた。19年度末時点で国が管理する国道や高速道路はほぼ着手済みだが、自治体管理では52%にとどまっている。

2巡目の点検を始めた19年度末時点で「緊急措置段階」とされた橋は812カ所。このうち699カ所は架け替えや撤去、廃止などの措置を取っている。

〔共同〕

9/17の記事より

引用記事

日経新聞

毎日新聞

化学工業日報

燃料油脂新聞

エービーシー商会

建材専門商社のエービーシー商会は、本社ビルの新築を機に、休館していた東京ショールームを新たにオープンする。商材を意匠と機能の両面から検討でき、設計・セネコン・企業施主などの顧客における商品選定をサポートする狙い。28日のオープンだが、新型コロナウイルス感染症対策として「3密」を回避する

東京ショールーム新オープン



本社内にオープンしたショールーム

建材ごとの工法、機能など比較展示

ため、当面は事前予約制での運営となる。同ショールームは、東京都千代田区の本社内に開設する。展示面積は約400平方メートルで、塗り床や長尺シート、セラミックタイル、天井材、ウッドデッキ、外装ルーバーのほか、エキスパンションジョイントカバー（E x P、J、C）や人工大理石も展示する。

なかでも「シーン展示」と「検証スタジオ」の設備を設けている点の特徴とする。これにより採用現場に近い環境で、建材ごとの工法などを確認できる。「シーン展示」では、目的別に想定した空間展示で商材を複合的に提案している。「検証スタジオ」では、塗り床材の施工実演のほか、天井材と照明器具間の検証、洗面カウンターの高さや水はねを比較検討できる。